

# 越谷市 手をつなぐ育成会だより やまびこ

編集 越谷市手をつなぐ育成会  
 会長 高野 淑 恵  
 〒343-0021 越谷市大林235-9  
 TEL・FAX 048-977-1908  
 発行 公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会  
 理事長 高野 淑 恵  
 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂  
 2-15-3 母子福祉会館内  
 TEL 048-833-0444  
 FAX 048-833-0400  
 発行日 令和2年9月30日  
 購読料 20円は会費に含む



## 『命のぬくもり……』

越谷市手をつなぐ育成会 会長 高野 淑 恵

平素よりご支援ご協力戴いております。皆様には厚く御礼申し上げます。

また新型コロナウイルスに罹患された皆様には一日も早く快復されますことをお祈り申し上げますと共に、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また医療従事者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

さて、コロナ渦の中、少しずつ各業界が営業を再開させています。各地の動物園も再開し、営業自粛のあいだに生まれた動物の赤ちゃんたちが次々とデビューして、コロナに疲れた心をほっこりさせてくれます。

生きとし生けるもの、すべて、赤ちゃんは可愛いです。きつと誕生の瞬間から祝福され無条件に愛情を注がれるようにという摂理があるのかも知れません。コロナ渦で家で過ごす時間が増え得たこともあり、犬や猫を飼い始めた人が増えたそうです。でも、どうか一時の気まぐれではなく、家族の一員としてその命の最期まで、共に過ごす覚悟をもって迎えてほしいと思います。大切な命なのですから。

何ヶ月前、生まれたばかりの仔猫が3匹、スーパリーの袋に入れられてコ

ミ置き場に捨てられていたそうです。見かねて保護した人が、動物病院に連れて行きましたが、1匹しか助かりませんでした。私の知り合いを通じて飼い主さんが決まり、引き取られるまでの数日を合意の人が預かりました。その知り合いが自分の両手のひらに小さな仔猫を包んで私に見せてくれました。そして私の両手のひらにそっと小さな仔

ネコを移してくれました。私の手のひらの中にすっぽりと包まれた小さな仔猫はふわふわと柔らかくあたたかく、残酷な人間の仕打ちさえ許して、どこまでも健気に懸命に生きようとする優しいぬくもりをくれました。ほんの少しの間でしたが私には至福のひとときでした。その後、毎日、手のひらのぬくもりを思い出している、新しい飼い主さんのところで幸せに暮らしているかなあと思っていました。でもその仔は、私と会った三日後、眠るように逝ってしまったので、新しい飼い主さんの家に行く日の朝のことだったそうです。

私がそのことを聞いたのは、その1ヶ月後くらいでした。柔らかくてあたたかかった小さなぬくもりを思い出しながら、哀しいけれど、でも、最期の数日間を優しい人たちの中で愛され、大切にされて生きられたことを「よかったね」と心から言うことができました。

コロナの感染拡大がいつに終息せず、みんなが息苦しい思いを抱えているせいもあって、虐待件数が増しているそうです。虐待の対象は、常に、弱さ、小ささ、自分の身を守れぬものたちです。障害者施設でも、日々の憂さを晴らすように、支援者による虐待が増えています。毎日のようにそういう報道を見聞きすることはとても哀しくつらく、憤りも感じます。

いつになったら鬱陶しいマスクなどせず、何の不安も無く、混み合った電車やバスで好きなだけ外出することができるだろうと、普通に当たり前であった頃に戻りたい思いで、心がザワザワすることもあてしめよう。でもだからといって、そういうストレスを自分の中で消化できず、小さきもの、弱きものにぶつけてしまうのは、決して許されることではありません。命の重さは人も動物も同じです。動物虐待、児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、すべて法で禁じられています。けれども私たちが願ってやまないのは、「法で禁じられているからやらない」のではなく、かけがえのない命を慈しむ心で自分を律してほしい——それだけなのです。



だいぶ秋らしくなってきたねっ。いつもの生活がなかなか送りづらい昨今ではありますが、ここは「新しいスタイル」を作るチャンス！ではないでしょうか？ 所外での活動もできない中ですが、新しい事にもチャレンジしました。そんな7月から9月の活動をご報告いたします。

### 流しそめん&

### スイカ割り大会



七月二十二日（水）にお楽しみ昼食会ということで「流しそめん&スイカ割り」大会を行いました。千草園で流しそめんを行うのは初めての試み。利用者の皆さんと駐車場にそうめんを流す竹をセットし、いざスタート！というタイミングでまさかの、大雨……。一応テントもセッティングしていたので何とか実施できましたが、

「雨男」の力を発揮してしまいました。（すみません…）殆どの利用者さんが流しそめん初体験でした。中には、流れないようにそうめんを手で押さえて、お箸で掴む。という技を生み出した人もいましたが、皆さん無事においしくいただくことが出来ました。午後はおやつでスイカ割り大会。雨もすっかりあがり、晴天の中でのスイカ割り、日頃のストレスをスイカにぶつけ見事に割れました。一人ひとりの笑顔溢れる一日でした。



### 第20回 千草園

### ミニミニ 夏まつり

八月二十八日（金）に千草園ミニミニ夏まつりを開催いたしました。例年ですと地域の

方々やいつもお世話になってる方々をお招きして実施される夏まつりですが、今回は、新型コロナウイルス感染予防の為、規模を縮小して、利用者さんとスタッフでの開催となりました。事前から、利用者と共に室内に装飾を施し、ミニミニとは言うものの「祭」の雰囲気満載で行うことが出来ました。今回は、模擬店中心のお祭ですが、例年と変わらぬ様々お店を出しました。ポップコーン、フライドポテト、フランクフルト、射的ゲーム、かき氷、焼きそばなどなど、お腹一杯になるほど楽しむことが出来ました。ぜひ来年は再び、地域の方々と盛大な祭りが行えるようになることを祈るばかりです。



### みんなで足踏み！ 「手打ちうどん作り」



九月二十五日（金）にお楽しみ昼食会ということで、「手打ちうどん作り」を行いました。前日から、利用者みんなで「うどんの作り方」というVTRを鑑賞し、イメージトレーニングはバッチリ！（真似をして汗をかき人までいました。）当日に備えました。まずは小麦粉を混ぜて、足で踏んでコシを出し、包丁を使って適度な幅に切る。という手順でそれぞれが頑張りました。皆さん粉まみれになりながらも、愛情たっぷり個性豊かな、千草園らしい？うどんが出来上がりました。作る大変さ、食べる喜び、それ以上に貴重な体験をしたようです。皆さん美味しくすべきりました。（田中）



## 野の花だより

暑かった夏も終わり、季節は秋になりました。今年は、新型コロナウイルスの影響で、熱中症とコロナウイルスに注意しながら過ごさなければならず、大変苦労しました。外出自粛と我慢をして、出来る限りのことを行いながら楽しく過ごした夏でした。

今号では、七月から九月までの様子をお伝え致します。



## 【東武動物公園】

七月十日（金）に東武動物公園に車で行ってきました。散策しながら動物を見学して、ゆっくり楽しんで来ました。

## 【土曜通所日】

七月十八日（土）に調理実習を行いました。メニューは、中

華井と豆腐サラダでした。包丁とハサミを使い上手に切れていました。味は、皆で作ったものなので美味しいに決まっています。お代わりする方もいて満足した様子でした。



## 【夏祭り】

八月二十一日（金）に毎年恒例の夏祭りを行いました。

午前中は準備を皆で行いました。ポップコーン、チョコバナナ、綿あめを作り、輪投げと

かき氷機を用意して楽しみな様子でした。昼食を食べてから夏祭りのスタートです。輪投げゲームを楽しみ、おやつのかき氷、ポップコーン、チョコバナナ、綿あめと沢山頂きました。専門学校の実習生も参加して頂いて、笑顔で盛り上がり、とても楽しく過ごすことが出来ました。

## 【土曜通所日】

八月二十九日（土）に調理実習を行いました。メニューは、ハンバーグと豚汁でした。土曜通所日には調理実習を行うことが多いので、慣れてきた様子で調理しています。午後は、散歩しながらジュースを購入して、満足な様子でした。



## 【お楽しみ会】

九月十一日（金）にお楽しみ会を行いました。午前中は、ミニ運動会を行い、玉入れ、大玉転がし、パン食い競争を楽しみました。パン食い競争では、「アパン」と言う方が多く一番人気でした。野の花の室内でしたが、楽しみながら運動出来ました。



今年は、新型コロナウイルスの影響で、楽しみにしている宿泊旅行、ディズニールランドなど様々な行事、外出などが中止になってしまいました。落ち着いた普通の日常に、出来るだけ早くなることを願うばかりです。落ち着いたら、皆様が笑顔で楽しめて、充実した行事を計画して思いっきり楽しんで行きたいと思います。

（金子）

# 会計報告

## 《 寄付 》

・鈴木 章 様

## 《 売上金 》

・わかめ	6,500 円
・ごま	5,950 円
・お茶	6,480 円
・そうめん他	5,700 円

ご支援ありがとうございます

齋藤 ゆり 様

ご入会  
ありがとうございます



### ◇◇ 編集後記 ◇◇

「色々な人たちがいるってということに自分も含まれているんだってことに気づけることが大事だね」

浜松の知的障害者支援の職員さんが体験訪問の小学生に何よりも伝えたいことだそうです。自分も「色々な人たち」の一人であることを自覚しなければ、上からの目線になってしまうことを訴えていらっしやいます。

私自身も、障害者の親として、支援者としてこの言葉を自省の念をもって噛みしめました。(猪鼻 孝子)

### 「手をつなぐがん保険」

育成会会員を対象とする「がん保険」をご紹介します。今まで知的障害者は、あらゆる医療保険に加入できませんでしたが、とてもありがたいですね。最近では二人に一人ががんになるといわれています。知的障害者本人はもちろんその家族も加入できる、この保険はとても画期的です。先進医療は高額ですので、この機会にぜひご検討ください。詳細およびパンフレットをご希望の方は、

せんち共済株式会社

0120(3)322(1)500

まで、お電話ください。